

平成29年度第1回中央区自殺対策協議会 議事（要旨）

1 日時 平成29年7月11日（火） 午後7時～午後8時15分

2 場所 中央区保健所2階大会議室

3 出席者

【委員】

張賢徳（委員長）、岩重佳治、石松伸一、池田真人、羽鳥賢三、埴佳生、阿部円、石井真人、松本豊（代理）、山崎甲司（代理）、加藤正志（代理）、三浦真（代理）、久保田広一（代理）、三井吉明（代理）、平賀正司
田中武、長嶋育夫、黒川眞、古田島幹雄、中橋猛

【事務局】

健康推進課長、予防係長、健康推進主査、他

（主な議題）

- 1 中央区の自殺の実態について
- 2 今年度の取組みについて
- 3 その他

[議事の経過]

1 中央区の自殺の実態について

事務局より中央区の自殺の実態についての報告があり、その後意見交換が行われた。
委員からの主な意見は以下のとおりである。

（事務局説明）

○平成28年度の自殺者総数は22人（男性12人、女性10人）であり、年齢別で見ると60歳代から70歳代の自殺者が多く、例年の30歳代から40歳代が多い傾向とやや異なっている。

○自殺者の属性としては、同居者ありが12人、なしが8人、自殺未遂歴ありが1人、自営者と被雇用者（勤め人）が約23%、無職が約68%となっている。原因・動機については、不詳が約68%と一番多く、健康問題（約23%）、家庭問題（約9%）と続く。自殺の手段としては、飛び降りが約46%、首吊りが約36%となっている。

（委員長からの意見）

○ホットスポット的な場所がなく、飛び降りが多くなると建物の構造上の対策といったハード面、また近隣者の見守りなどのソフト面といったように両面での対策が考えられるため、今後議論していきたい。

2 今年度の取組みについて

委員より役割シートに関する取組みの活動状況について報告があり、その後意見交換が行われた。委員からの報告や主な意見は以下のとおりである。

(事務局説明)

- ゲートキーパー養成講座を前年に引き続き3回行う。第1回は9月に一般区民を対象に、第2回は10月に区職員を対象に、第3回は3月に銀座社交料飲協会（銀座のバーやスナックが加盟）を対象に実施予定。
- 今年度より、新たに京橋図書館と連携し、8月上旬から京橋図書館の1階展示スペースで自殺予防に関する図書を展示する予定である。
- 薬局連携ステッカーの貼付状況等を把握することも含め、アンケート調査をする予定である。

(委員からの意見)

- 自殺企図者は、複数の困難が重なり自殺に追い込まれていく傾向があることから、区役所において、部署間の連携、情報共有に向け、具体的な取り組みを考えていくことが重要になってくる。

(委員長からの意見)

- うつ病になるプロセスの中で支援の手を差し伸べられるかどうか重要になる。その対策は1つの部署で対応するのは難しいため、連携が必要になる。日ごろの自殺予防についての意識をどうやって横につなげていくかを大きなテーマとして今後考えていきたいと思う。

3 その他

- 委員より新たな『自殺総合対策大綱のあり方検討会』の報告書について、説明があった。
- 平成29年度第2回中央区自殺対策協議会は、平成30年2月7日に開催されることが決定した。